

妊娠・出産から考える、 女性の生き方

C

目次

- 1.現状
- 2.法律
- 3.制度
- 4.まとめ

このテーマにしたきっかけ

- ・私たち女性が社会走出去上で関わってくる問題だから。
- ・働き方が多様になっているはずの現代でも、妊娠・出産の前後での負担が女性に偏りやすい課題が続いているから。

妊娠・出産の現状

- 制度があっても使いづらい
- 休むことで周囲に負担をかけるという意識から生まれる偏見
- 「マタニティハラスメント(マタハラ)」を受ける女性が多い



法律名

男女雇用機会均等法（1972→改正1985）

育児・介護休業法（1991制定）

母子保健法（1965制定）

労働基準法第65条（産前産後休業）

内容

妊娠・出産・育児を理由とする不利益取扱いを禁止。

出産・育児のために男女とも休業を取ることを認める。

妊娠届・母子健康手帳・健診など、母子の健康を支援。

産前6週・産後8週の休業を保障。



女性の生き方への影響

妊娠を理由に退職させられない権利を保障。

育休取得が制度的に可能になり、女性の就業継続を支援。

妊娠期～出産後の医療的支援体制を整備。

産後の回復と育児の両立を法的に守る仕組み。

法制度が整うことで、女性が“産む・働く・生きる”自分で選べる社会へ。

妊娠・出産と働くこと



- 制度があっても使用するのに暗黙のルール的なものが存在する
→順番に妊娠しなければならない等
- 妊娠・出産をきっかけに退職する人は多い
- 企業によっては在宅勤務やリモートワークに対応している

制度の変遷

- かつて女性にだけ再婚禁止期間が設けられていた
→2024年3月31日に廃止され、現在では改正されている



近代になっても女性の制度的不平等は残っていた
→女性の不平等はまだ残っているのではないか



制度の課題

- 制度的な支配がなくなった現在でも、**心理的・文化的**な支配は根強く残っている

→女性が働いたり発言する際に無意識に遠慮してしまったり、自信を失くしてしまったりする



こうした背景が、女性の選択に大きな影響を与えている

課題解決のために

1. 制度の見直しと可視化
2. 根付いた社会文化の訂正
3. 個人の内面の援助

「制度の見直しと可視化」

- ・現在ある制度をより実効性のあるものへと見直し、男女平等を目指す必要がある
- ・特に、男女の賃金格差や昇進機会の不均衡を可視化することで、多くの人に現状を理解してもらう

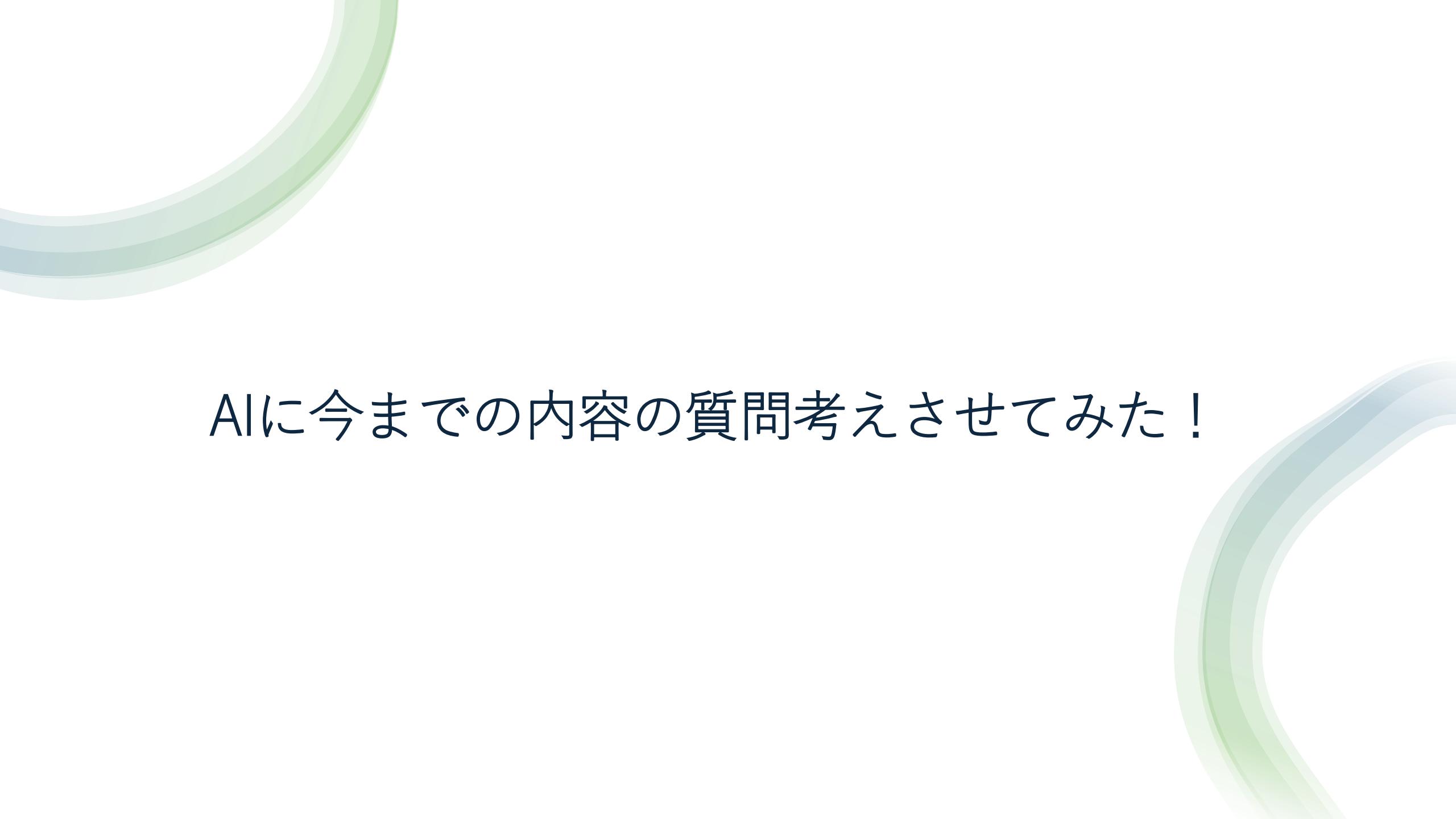
「根付いた社会文化の訂正」

- ・「女性は控えめに」「女性は慎ましくあるべき」といった価値観を問い合わせし、多様な女性像を社会に広めることが求められる

→そのために、メディアや教育の場で多様な女性の活躍を積極的に取り上げ、無意識の偏見を少しずつ変えていくことが大切

「個人の内面への援助」

- ・「自由に選択していい」「声を出していい」という自己肯定感を育てる場を増やす
→悩みを一人で抱え込まず、誰かと対話できる環境を整えることで、女性が安心して自分らしい選択ができる社会につながる



AIに今までの内容の質問考えさせてみた！

Q1

制度はあるのに、何で女性は使いにく
いって感じるの？

A

制度はあっても実際に使うと周りに迷惑
がかかるのではないかと思うから

Q2

「順番に妊娠しないといけない」という
暗黙のルール、これってどんな悪影響がある？

A

妊娠する時期を、会社の都合に合わせなければならなくなってしまう。結果的にキャリアを諦めたり、退職につながることもある。

Q3

課題解決するには、制度・文化・個人の
どこから手をつけるのが一番いいと思う？

A

まずは制度をちゃんと見直して格差を可視化することが必要。そして、文化的な価値観も少しづつ変えていき、個人が自信を持てるように支えていく。

まとめ

妊娠・出産の現状：制度はあるが利用しづらく、マタハラや暗黙のルールが残る

法制度：再婚禁止期間の廃止など改善は進むが、不平等は依然存在

心理的・文化的支配：女性が働く・発言する際に無意識の遠慮や罪悪感を抱きやすい

課題解決：

制度の見直しと格差の可視化

「女性は控えめに」といった価値観の再検討

多様な女性像の発信

自己肯定感を育む場や対話の機会を増やす



→ 女性が“産む・働く・生きる”を自由に選べる社会へ

ご清聴ありがとうございました。